

NPO 法人

希 望

NEWS

発行 NPO 法人希望 広報

四街道市四街道 1-6-11 田中ビル 3 階

TEL・FAX 043-421-6645

E-MAIL kibou_donguri@ninus.ocn.ne.jp

HP <http://kibou-donguri.org>

2019年 4月 No38

巻頭エッセイ

「守護る」

副理事長 小林 征司

10歳になったばかりの頃から朝3時に起きて新聞配達に行き、終わるとその足で納豆を売り歩いた。夕方、学校から帰ると遊んでいる近所の子供たちを横目に夕刊の配達に出かけ、家に帰れば職場で怪我をして働けなくなった父に代わり夜遅くまで働いている母を助け、うどんを茹でたり芋を蒸かししたりと貧しい夕飯の支度が待っていた。でも夕飯の支度ができる日はまだ良かった。食べ物が全くない日の方が多かった。

20歳を過ぎたとき私の手相を見てある占い師は言った。

「どこかの施設で育ったの？子供時代にこんなに苦労している掌は珍しい。」

それでも私はそんな厳しい貧しさの中にいる自分に何の見返りも期待せず優しい手を差し伸べ、優しい心を傾けてくれた人たちを忘れられない。それが何よりの幸運だった。

そんな優しさに励まされ、いつか自分も他人に優しくなれるようになりたいと思い続けた。それとあの時代は国全体の食糧事情が悪く、貧しい家庭が多かった。

だが豊かになってあの頃とは隔世の感がある今、悲しいニュースが私を打つ。

「子どもの貧困」

大人が苦しむのはある意味自己責任で仕方ない面がある。しかし、子どもを苦しませてはいけない。ましてや子どもを持つ家庭の貧困が、その親たちの心の貧しさと呼び子どもを虐待するケースなど言語道断。

修学旅行に行けないなどはまだ良い。給食費が払えない。鉛筆もノートも買えない。満足な食事も与えられない。栄養失調になるが病気になっても医者にかかれぬ。手遅れで後遺症が残る。

国は義務教育だと言いながら、この現実を目をつぶっている。「申請すれば給食費は免除できます」などという前に義務教育なら全額を国で補助し、少なくとも中学卒業までは学業と医療の面で格差をなくすようにしてほしい。

子供に責任はない。大人の責任だ。

健全な成人が守るべきは「こども」・「障がいを持った人」・「病気の高齢者」。

この人たちを守るために使うなら消費税が30%でも文句はない。

会場

総合福祉センター

日時

六月二十二日（土）

午後一時三十分

通常総会のお知らせ

おたまじゃくしのつぶやき

「常套句」

理事 伊佐 勉

日頃耳にする言葉でいくつか気になる、というよりも気に障るものがあります。

「誤解を与えた」—暴言を吐くたびに非難されてはリフレインされます。まるで受け取る側の能力不足を言っているようで腹立たしい限りです。その想像力の欠如は十分理解されているのです。

「真摯に受け止める。」—必ずしも言い分を取り入れることではないらしい。とても紳士的とはいえません。一日に一度は聞かされる「加速」—急かされる感じで居心地が悪くなります。いかにも「やっています。」という姿勢を見せる働きを期待しているのですが、実質は遅々として進まずということもあります。ものによっては、「暴走」につながるものが恐ろしい。皆さん鵜呑みには気を付けましょう。(本号からこの表題で連載します。乞ご期待)

中央省庁の障害者雇用 未達は予算減 政府方針

新聞報道によれば、中央省庁での障がい者雇用数の水増し問題を受け、政府は法定雇用率が達成できなかった省庁の予算を減らす仕組みを導入する方針を固めた、とのことである。民間企業には、法定雇用率を達成できない場合「罰金」ともいうべき制度があり、原則達成不足一人につき月5万円の納付金を国に支払わなければならない。一方国・地法自治体にはこうした制度がなく不平等だとの批判があった。漸く政府も「水増し問題」の取り組みを実施するかに見えるが、引き続き障がい者雇用の問題を私たちは注意して観て行かなければならない。

編修子維感

法人が運営するグループホーム「だんらん」が開設して1年半を経過しました。入居者は元気で過ごしていますが、有難いことにご近所の方がご自分の畑の野菜を届けてくださいます。地域の方々の温かさを感じます。支えられていることに感謝です。

詩

特別な日

とも作

